

つきたい力

- 1、主体的に学習に取り組む力
- 2、他者と協働して問題を解決する力
- 3、知識を活用し、表現する力

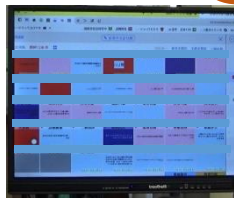
取組みの概要・ポイント

- ・評価指数(ルーブリック)を示し、生徒自身が能動的に課題を解決する道筋を作る
- ・ICT機器を活用し、他の生徒と情報を共有しながら、共に学ぶ環境を作る
- ・得た知識をもとに単元のまとめを書き、自らの学びを視覚化、また蓄積する流れを作る

具体的な取組みの内容

②生徒同士の協働的な学習

各教科の特性を生かし、毎回の授業で生徒間の意見交流を活発に行わせる。その中で、他の生徒の意見と自分の意見とを比較させ、意見交流を通して自身の考えを深めさせる。意見を交流する際は、ロイロノートを活用するなど、思考ツールを生かしたいが、プリントと板書で行うことも想定される。生徒は、協働的な活動を通して、情報を取捨選択する力や、主体的に学ぶ態度を養うことができる。



①ルーブリックによる評価基準の提示

「Google For Education」内のアプリケーション(テキスト・スプレッドシートなど)と連動して使える「ルーブリック」を用いて、課題の評価基準を生徒に提示する。生徒は、教員側の提示する評価基準を知ること、目標を設定しやすく、見通しを持って学習に取り組める。

①～④のサイクルを回す

内容 **国語科のルーブリック**

羽生さん、松澤さんの意見を批判的に読んだ上で、テーマに沿った内容を書いているか判断します。

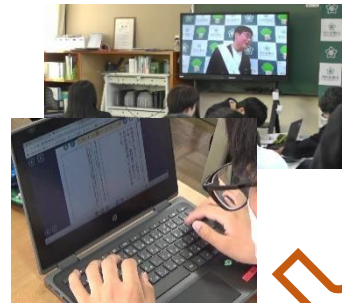
A	B	C
本文の内容や学習の内容を踏まえて、テーマに沿った文章が書けている。	テーマに沿った文章が書けている。	テーマに沿った文章が書けていない。

【2】数学 **数学科のルーブリック**

A	B	C
授業の中で自分軸と別題の設問ができ、途中の計算などがわかる。	複数の方針に取組む中で、別題の取組ができ、算数の問題理解ができる。	別題の取組が非常に取組むことができ、算数の方針が定まっている。

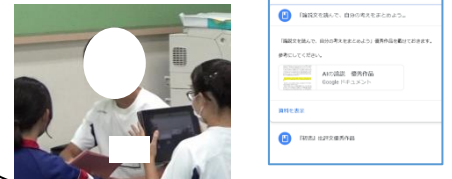
③思考力・判断力・表現力の育成

自分の考えや、単元で学んだことを①で示した基準をもとに、生徒たちにまとめさせる。生徒は、今までの学習や①、②で得た知識を複合的に思考、判断し、表現する力を伸ばすことができる。



④学びの蓄積

③で作成したまとめを蓄積させる。生徒は自身の学びを振り返ったり、他生徒と学びの振り返りを共有することができる。



取組みを通しての子どもの変容

・1人1台端末でルーブリックを示すことで、生徒の活動が活発化した。特に授業や単元の学習をまとめたり、学んだ内容を踏まえて、自分の考えを発信する、思考力・判断力・表現力を発揮する活動で一定の効果が見られた。全国学力学習状況調査の結果でも、思考、判断、表現の項目で例年に比べ、数値が上向いた。また、学びを蓄積することで、以前の自分の成果物との比較を意識したり、他の生徒のまとめなどを自身の学びに生かそうとする生徒が増えた点でも、取組みの効果が感じられた。

東中スマスクサイトに本校の取組みなどを掲載しております。ぜひご覧ください。

